

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第37号

平成28年12月13日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

11月8日、紅葉の吉野山・如意輪寺で現地学習

正行、鎌で辞世の歌を刻んだ扉に、全員くぎ付け

加島住職に「小楠公髻塚の碑」の拓本を、とお願い

近鉄阿倍野橋から近鉄特急で向かう

先月の河内往生院に続いて、今月も現地学習で、吉野山・如意輪寺を訪れました。

突然の体調不良やご家族の急病、更には業務の都合等で、残念ながら参加できない会員が4人出て、JR四條畷駅に集合したのは会員7人と特別参加の奥田さん（教育文化センター指定管理者・阪奈エンタープライズ株式会社社長）の8人でした。



JR四條畷駅から、京橋経由で、天王寺、そして近鉄阿倍野橋駅に到着し、阿倍野橋から吉野までは、近鉄特急に乗車して吉野に向かいました。

列車内で、扇谷が準備した例会資料を基に、短時間の例会を開催して、あとは和やかな談笑の中で、あっという間に吉野に到着しました。

吉野駅に着いた一行は、小雨の中、如意輪寺を目指して「ささやきの小道」を歩き始めましたが、途中、一匹

の犬が私たちを出迎えるように現れ、その後、如意輪寺



に到着するまで、前に行ったり、後ろに下がったり、休憩場所では一緒に休むなど、まるで如意輪寺から道先案内に来てくれたのでは

ないかと見まがうばかりでしたが、実は道中の家の飼い犬とのことでした。ワンちゃん、ありがとう。

約45分で、如意輪寺に到着しました。会員には70代後半の人もいて、いささか疲しかったようで、特に、最後の石段は相当こたえた様子でした。

ご住職の講話後、寺自家製のピザで昼食

如意輪寺に到着すると、ご住職夫妻、そして御子息の副住職が出迎えてくださり、早速、本堂にご案内いただき、ご住職の講話を聴かせていただきました。

また、東京から参加の広木さんも、ほぼ同じ時刻に到



着、再会を喜び合いながら合流しました。

ご住職は、如意輪寺の沿革、そして長宗我部元親と楠木正儀の末裔にあたる楠

瀬家の娘との間に生まれた六男、文親が鉄牛上人として吉野に入り中興の租として再建に取り組んだこと。また、如意輪寺再建の折に、如意輪堂から板塀が外され、今その板塀は宝物殿に展示していること。などなど、ご説明をお聞きしていると、お目当ての「ピザが焼きあがりましたよ」と、奥様からお声がかかり、寺務所の中で昼食をいただきました。

ピザは、後醍醐天皇が好んで食したといわれているチーズをふんだんに使ったものと、トマトやピーマンなど野菜を主にした小僧ピザの二種類。

ご住職と副住職のお二人が焼いて下さったピザをほおぼりながら、奥様が入れてくださったコーヒーやお茶などをいただきました。

特別公開中の御霊殿に感激

楽しい食事タイムの後は、境内、そして宝物殿の見学へと移りました。

この日、ラッキーなことに、後醍醐天皇御霊殿の年一回の特別公開と重なり、後醍醐天皇自作と云われる木像を拝見し、宝物殿に向かいました。

宝物殿では、会員一人一人が、それぞれ関心を持つ展示物の前に立ち、じっくりと鑑賞することができました。

しかし、何と言っても、正平2年12月27日、四條畷の戦いを前に訪れた如意輪堂の板塀に楠正行が鏝で刻んだといわれる辞世の歌、「かゑらじとかねて思へ梓弓なき数に入る名をぞとどむる」を刻んだ板塀に、多くの方がくぎ付けとなりました。

そして、宝物殿での鑑賞を楽しんだ後、裏山の塔尾山の石段約60段を上がり、後醍醐天皇陵に参りました。

ここでは、会員の真木さんに藤井竹外の芳野懐古を吟じていただきました。突然のリクエストにもかかわらず気持ちよく受けていただき、静寂の中で、後醍醐天皇陵を前にした放今に、会員一同聞き入りながら、南朝への思いを一層熱くしました。

小楠公髻塚の碑他、境内に数ある句碑、歌碑

今回の現地学習は、如意輪寺に残る史跡の中でも、特

に、「正行公の髻塚」「小楠公髻塚の碑」「弁の内侍詩情塚」「芭蕉の句碑」「尾山篤次郎歌碑」などの句碑・歌碑等にこだわっての学習でした。

小楠公髻塚の碑は、森田雪斎の撰文ですが、正行公を讃えた内容が刻まれています。しかし、現在は石の風化と時間の流れとともに、表面の文字がほとんど読み取れなくなっています。

そこで、扇谷から、ご住職に対し、「ぜひ、拓本を取っていただき、その拓本を展示いただくとともに、印刷して販売し、広く求める人に伝わるようにしていただけないか」と、お願いしました。

広木さん、東京支部長として我々の仲間に

アツという間に、予定の滞在時間が終わってしまいました。

広木さんは、この日、吉野山に宿泊の予定という事で、如意輪寺でお別れしましたが、四條畷楠正行の会の会員として正式に入会いただき、この日、晴れて東京支部長になっていただきました。(四條畷楠正行の会も、いよいよ全国展開!?)



私たちの会としては、一人でも多くの人に楠正行の生涯や生き様を伝えていきたいとの強い思いを持っており、遠く、東京にも仲間ができて、会員全員で喜び合いました。

帰途は、滞在時間を少しでも長くしたいという思いからタクシーを呼んでいただき、特急ギリギリの時刻に、吉野駅に向かいました。

ご住職夫妻と副住職にお見送りをいただき

ながら、お土産にと頂いた正行辞世の歌を描いたハンカチ、そして「帰路、電車の中で」といただいたお菓子を手に、タクシーに乗り込みました。

1月例会は10日(火)午後1時30分～

12月の例会は、座学を休み、13日(火)、会発足以来初めてとなる懇親会(忘年会)です。

楠正行にご関心のある方は、ぜひ来年1月10日(火)午後1時30分、教育文化センターにお越しください。一緒に学びましょう。大歓迎です。

(文責「四條畷楠正行の会」代表 扇谷昭)